

5. 甲信越（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連 (甲信越)	◎	その他サービス〔葬祭業〕(経営者)	・今月は当社が新聞に掲載されたこともあり、問合せが増えている。
	○	百貨店(店長)	・春に向けたイベントの充実による集客増を見込んでいる。また、景気対策への期待も出てくる。
	○	スーパー(経営者)	・食品の消費税が軽減されれば、一時的にはプラスだとみている。
	○	スーパー(経営者)	・2月8日に衆議院選挙があり、昼食と夕食の注文を6か所の投票所から受けている。今のところ、他の注文がないため、楽にこなせそうである。3月になれば総会等の注文が入るため、忙しくなる。
	○	コンビニ(経営者)	・春めいた天候になれば、来客数も現状を上回るとみている。
	○	コンビニ(経営者)	・新年度の準備に伴う需要増加が見込まれる。
	○	乗用車販売店(経営者)	・ガソリン暫定税率廃止に加え、自動車税の環境性能割廃止などが、販売量の増加につながると期待される。
	○	観光型旅館(経営者)	・春はインバウンドの占める割合が低下し、首都圏からの客も動き出すため、現状よりは回復する。ただし、大都市圏や近隣の観光地のインバウンド需要の減少から、国内客の取り合いが予想される。例年と比べると厳しい予想だが、今月よりは良くなる。
	○	タクシー(経営者)	・年度末に向けて、イベント等の開催が期待できる。
	○	遊園地(職員)	・最近の情勢から、引き続きインバウンドの動きを注視しつつも、卒業旅行や春休みに向けたプロモーションの強化を図り、集客に努めたい。
	□	商店街(代表者)	・正月なので少し期待をしていたが、平日と変わらなかった。古い商店街は段々と寂れていってしまうのではないかとみている。
	□	一般小売店〔家電〕(経営者)	・衆議院選挙もあり、先行きが見えてこない。客は財布のひもを締めて支出を控えている。
	□	百貨店(営業担当)	・衆議院選挙後の政権が、物価対策をどのように進めていくかによって景気は違ってくる。春闘で賃上げがスムーズに行われるかによって、どちらに転ぶか分からぬ。
	□	スーパー(店長)	・商材の値上げ傾向は変わらないと取引先から連絡を受けている。給料と物価のバランスが取れるまでは変わらない。
	□	スーパー(企画担当)	・賃上げや減税等の結果、消費や景気にどのような影響が出るのか、現段階では予測を立てにくい。
	□	コンビニ(経営者)	・1月は降雪の影響は少なく、人の動きがあったため、春先も今月と余り変わらない。
	□	コンビニ(経営者)	・人の入れ替わりが激しくなる時期になるため分からぬが、大きく変わることはなさそうである。
	□	コンビニ(店長)	・特別大きな変動はない。今後の値上げが若干不安な状況だが、客も慣れてきているため、変わらない。
	□	家電量販店(店長)	・景気対策効果が実感できない。
	□	自動車備品販売店(従業員)	・物価高もあり、必要な物だけ消費する傾向が強い状況は変わらない。
	□	一般レストラン(経営者)	・衆議院選挙の結果がどうであれ、大きな変化は期待できない。
	□	スナック(経営者)	・宴会は増えているものの、個人客は減っており全体的にどうなるかは分からぬ。食料品の消費税が軽減される場合、外食に対する消費税率が10%のままで残ることをかなり心配している。その場合、外食産業にはかなりのダメージがある。
	□	スナック(経営者)	・毎年少しずつ新年会が減っている。春の異動の時期に行われていた歓送迎会も行わない傾向にあるため、さほど期待していない。
	□	都市型ホテル(スタッフ)	・2月8日の衆議院選挙までの期間は、今より更に客足が鈍くなると予想している。選挙後は、天候次第で客の流れが変わることを期待したい。

	□ 都市型ホテル（スタッフ）	・正直読めないが、リードタイムはかなり短くなっている。また、ターミナル駅前の平均単価の高騰もあり、売上自体は、宿泊者数が伸びなくても上がっていく印象を受けている。
	□ 旅行代理店（副支店長）	・物価高が継続し、旅行代金も上昇しているため、客の旅行意欲はあるものの、足踏み状態が続いている。春に向けた団体旅行の販売量も低迷している。
	□ タクシー運転手	・夜間のタクシー依頼が少なくなってきた。今まで夜の隔日勤務をしていたが日勤に変更する乗務員も出てきている。
	□ 通信会社（社員）	・入退去のシーズンとなるが、解約と新規契約の入れ替わりで、現状維持ペースである。
	□ 通信会社（社員）	・不透明感は相変わらずで、衆議院選挙で良い方向になるとは考えにくい。
	□ 観光名所（職員）	・スキーを目当てに来訪する外国人客も春には落ち着く。春からの観光客がどの程度になるかは今のところ見当が付かない。
	□ ゴルフ場（経営者）	・衆議院選挙次第ではないかと考える。
	□ ゴルフ場（副支配人）	・周辺でプレー料金を上げたゴルフ場があるが、来場者数が減少している。
	□ その他レジャー施設〔ボウリング場〕（経営者）	・春休みで学生を中心とした来客数の増加が期待できる。
	▲ 商店街（代表者）	・先行きの明るさを実感する人が多くならなければ、現状維持が精一杯である。
	▲ 商店街（代表者）	・物価上昇への対応なのか、生活必需品を中心に買上点数が減少している。
	▲ コンビニ（エリア担当）	・これまでと変わらず、可処分所得が増えていない。
	▲ 乗用車販売店（総務担当）	・衆議院選挙等、政治の不透明感からやや悪くなる。
	▲ その他専門店〔酒〕（店長）	・当店は酒を中心に販売しているので、酒自体の値上がりに伴い、売上は前年実績よりは伸びている。ただし、食品等の値上げやローン等、客は何かしらの不安材料を抱えており、そうしたなかでし好品を買う頻度や雰囲気は非常に良くない。原因は単純なものではないと考えている。この5～6年でマインドが少し変わってきたと実感している。
	▲ 都市型ホテル（スタッフ）	・かなり先の日付でもイベント等に合わせて予約はすぐに入ってくる。しかし、それ以外の動きが余り良くなく減少傾向にある。これが衆議院選挙の影響なのかは不明だが、選挙結果やその後の政策次第では、更に落ち込みそうで不安である。
	× コンビニ（経営者）	・今後は人口が減少していくため、悪くなる。
企業動向関連 (甲信越)	◎	—
	○ 食料品製造業（製造担当）	・取引先を変更し、付加価値商材を販売するため、良くなる。
	○ 窯業・土石製品製造業（経営者）	・受注した仕事が進むことを予想している。
	○ 金属製品製造業（総務担当）	・半導体の需給が回復し、やや良くなる。
	○ 建設業（経営者）	・現時点では予約が入ってきていないが、季節要因もあり、現状よりはやや良くなるとみている。
	□ 食料品製造業（営業統括）	・相変わらず、消費者の購買マインドは衰えており、ワインのような比較的し好性の高い商材は、伸び悩んでいる。
	□ 金融業（調査担当）	・製造業の需要は底堅く推移するものの、レアアースの輸出規制強化の影響が懸念される。非製造業はインバウンドを中心に冬季の観光需要が期待される一方、コスト高の影響がマインドを押し下げる見込みである。
	▲ 食料品製造業（総務担当）	・原材料価格の高騰が続いているため、やや悪くなる。
	▲ 出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・3月からまた紙代が上がるが、客に価格転嫁ができるかどうか、非常に厳しい状況である。

	▲	電気機械器具製造業（従業員）	・今年に入ってから、銅相場が急に値上がりしており、現在の価格では製造が厳しい。また、相場上昇に伴い、いろいろな物の値上げが予想される。したがって、先行きは悪くなる。
	▲	その他製造業〔宝石・貴金属〕（経営者）	・1月は古い在庫品が売れたが、同じ商材を新たに作るとなると価格が10%から20%は上昇してしまう。地金の高騰で既に客が求める価格帯での商品作りが難しくなっている。価格上昇の影響により、ルートセールスや催事の売上は減少している。
	×	出版・印刷・同関連産業（経営者）	・毎月の資金繰りが大変である。
	×	電気機械器具製造業（経営者）	・資材価格が2倍以上に値上がりしているため、受注量が安定していても利益は見込めない。
雇用 関連 (甲信越)	◎	—	—
	○	職業安定所（職員）	・経済対策等が一層スピーディに動くことへの期待がある。産業によって濃淡はあるものの、景況感が改善すると期待する見方を示す事業所が散見される。
	□	職業安定所（職員）	・新規求人数が前年同月比で7.0%増加し、3か月ぶりに前年同月比で増加している。
	□	職業安定所（職員）	・新規求職者数が僅かに減少しているが、在職者の相談は変わらず多い。現在よりも良い条件の就職先を求めている状況は変わらない。
	□	民間職業紹介機関（経営者）	・製造業において、原材料の高止まりや値上げにより、輸出産業以外の分野では、厳しい状況が続いている。
	▲	職業安定所（職員）	・中国の景気低迷に加え、米国の関税政策の日本経済への影響が徐々に顕在化している。今後は日本企業の収益悪化や日本銀行の政策金利の引上げによる為替への影響等も懸念される。
	×	人材派遣会社（営業担当）	・政治などの動きが不透明で消費に目が向かないため、景気は後退する。